

編集後記：先日開催された北海道洞爺湖サミットにおける主要議題の一つに温暖化に対する問題がありました。温室効果ガスの削減に関しては、各国間の利害が激しく作用しながらも、中・長期的目標に一定の合意を取ることができたようです。

そのような世界の動向にマスコミを通じて注視しながらも、実際に身近なところで環境問題などを意識している人はあまり多くないのかもしれない。現実的には、例えば個人で何かを節約してもそれが国全体の削減目標達成にはほとんど影響が無いのかもしれない。しかし、日本の国としての目標はともかくとしても、個人で努力して節約した分、その光熱費を削減できることは、昨今の各種公共料金が大きく値上げされている現状の中でうれしいことではないでしょうか。

このような細かい考えがあったわけではないのですが、数ヶ月前にワットチェッカーという装置を購入しました。この装置はコンセントと電化製品の差込プラ

グとの間にセットすることで、使用電流、電圧、電力、電力積算値などを測定できるものです。電力会社からの明細票には1ヶ月に使用した電力の総量の記載はありますが、それだけでは実際にどこにどれだけ使用したのかは分かりません。家で使用している電化製品の電力を逐一計測することで、効果的に節電することができるわけです。近頃は製品の待機電力もカタログに掲載される時代ですが、それでも実際に電力を測ってみると意外なところで浪費していることに気が付きます。

そんな奮闘を尻目に夏も盛り、最も暑い時期にさしかかりました。ワットチェッカーを片手に、部屋の涼しさと電気節約を秤にかけながら、エアコンの設定温度を睨む機会が多くなりそうです。

ただ少し残念な事に、この装置は意外と高価で、購入価格分を電気代の節約で元を取るのには多少の年月がかかるのかもしれませんが。 (笠原真吾)